

# デジタル社会実現へ向けた SMBCグループの取り組み

---

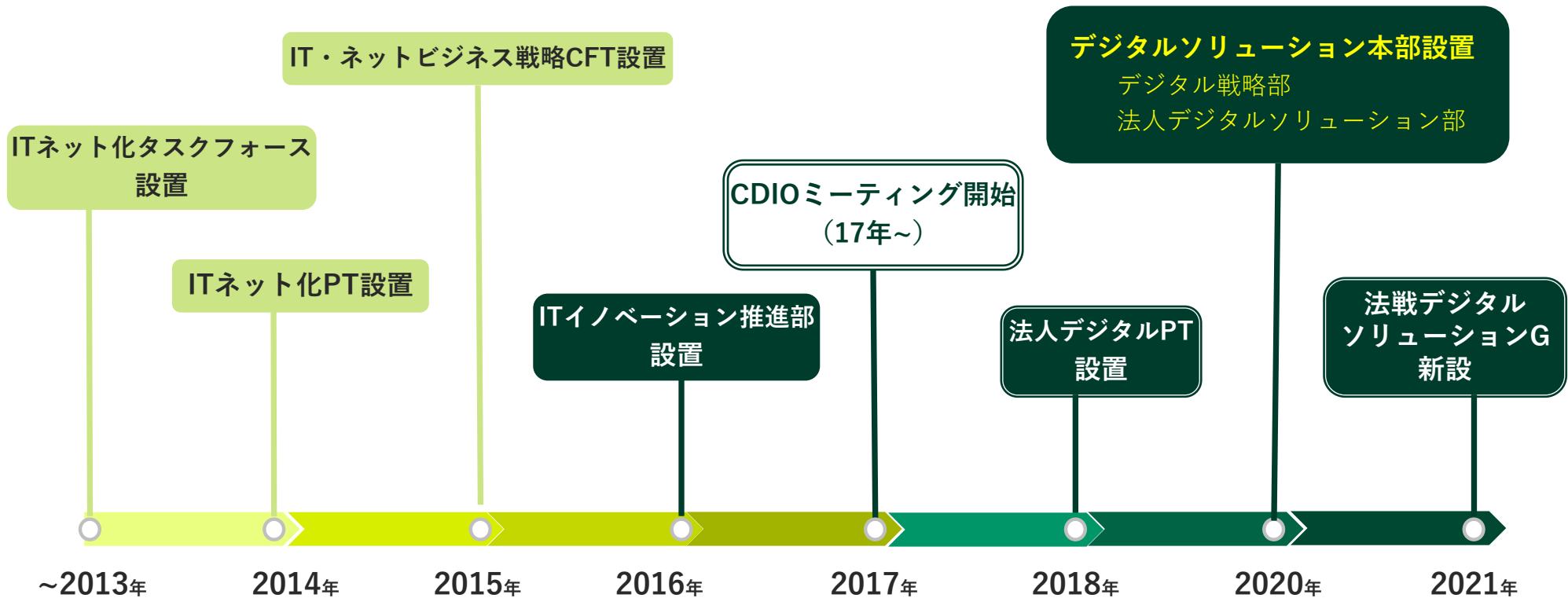
株式会社三井住友フィナンシャルグループ  
デジタル戦略部



# SMBCグループのデジタルイノベーションの歩み

# SMBCグループのデジタルライゼーションの歩み

- SMBCグループでは、他行に先駆けてデジタルライゼーションに取り組む。
- 2015年10月にFGのイノベーション創出をミッションとして担う、ITイノベーション推進部を設置
- 2020年4月にデジタルソリューション本部を設置（デジタル戦略部及び法人デジタルソリューション本部）



# デジタル化4つの領域

- SMBCグループでは、デジタル化への取組みを攻め、守りの観点から4つの領域に分類
- デジタル戦略部は、顧客起点での「攻めのデジタル化」を中心に取組み

		領域	内容・目的	ポイント
攻めのデジタル化	顧客起点	Digital Innovation (DI)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新規ビジネス／事業の創造</li> <li>● プラットフォームビジネス構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタル関連部署中心で、スピード重視での新規事業ビジネスの創出</li> </ul>
		Digital Transformation (DX)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジネスモデルの変革</li> <li>● 顧客価値創出</li> <li>● 事業戦略実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業部門中心の推進</li> <li>● 既存事業の再構築</li> <li>● 事業計画実現・実効果への拘り</li> </ul>
守りのデジタル化	自社起点	Digitization	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存業務プロセスのIT化によるコスト削減、事務プロセス改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業部門とIT部門の一体推進</li> <li>● 経費削減に拘った検証</li> </ul>
		IT Infrastructure	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中長期ビジネス変革を支える柔軟・盤石なインフラ基盤</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 計画的な更改による品質維持</li> <li>● グループベースでの一元管理</li> </ul>

# 1. SMBCグループのデジタルライゼーションの歩み

## 主なデジタルサービス



立上済のビジネス

検討中

金融  
サービス

stera

brees

バーコード決済サービス



建設業界向け金融プラットフォーム

Custella (分析サービス、SMCC)

オンラインビジネスマッチング



効率化コンサルサービス



電子契約サービス



生体認証・eKYCサービス

医療分野における情報銀行

TOYOTA Wallet (SMBC、SMCC)

UNIQLO Pay

セキュリティ・トークン (SMBC日興)

ブロックチェーン貿易金融PFへの参画

SMBCエルダープログラム



医療情報アプリ・後払決済



広告ビジネス



法人顧客向けプラットフォーム

衛星データ活用サービス

B2B決済プラットフォーム

アジアでのEmbedded Solution

金融スーパーアプリ

Green Solution

RT:セグメント特化型Solution

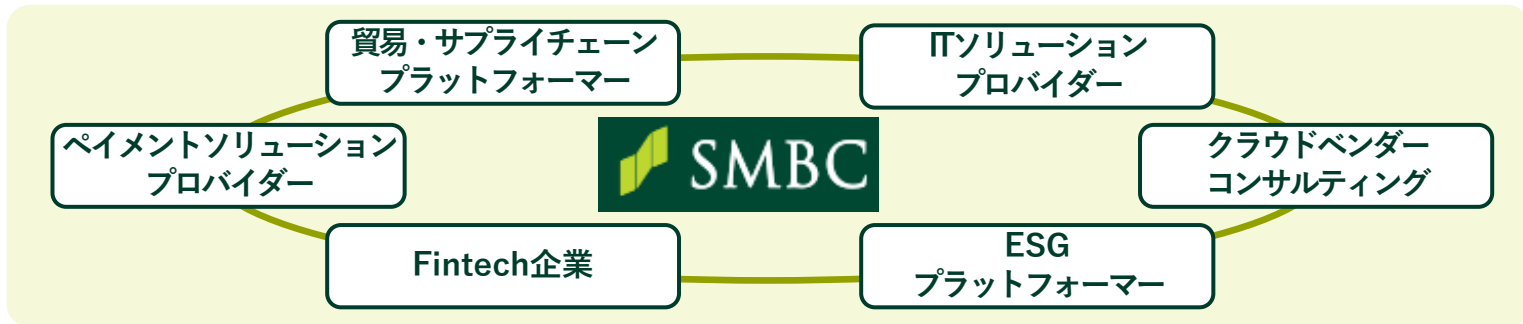
非金融  
サービス

デジタル子会社等

BC・主要グループ会社本体

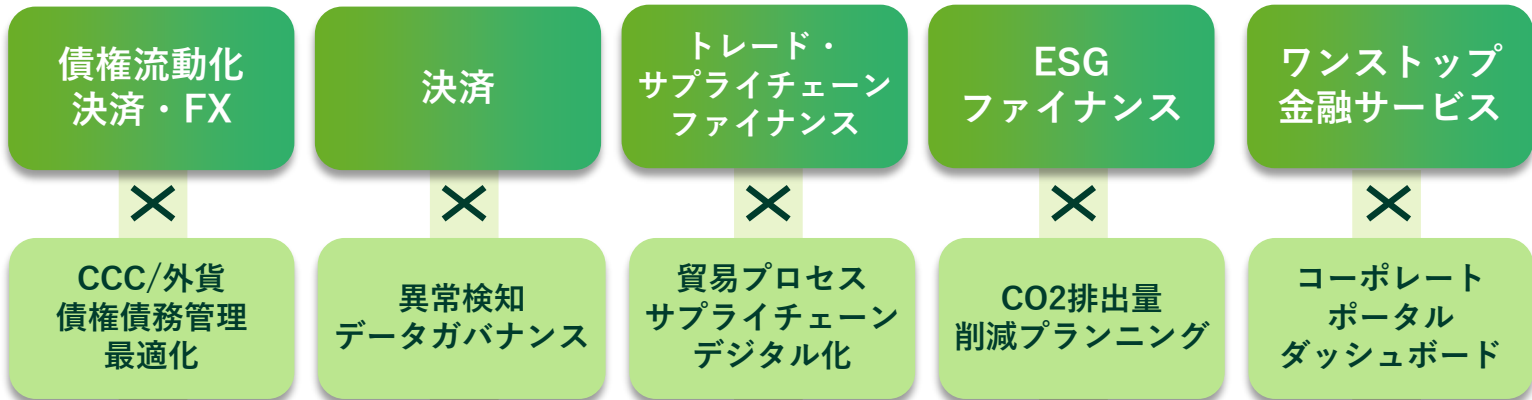
# Embedded Solution

銀行  
w/プラットフォーム  
(エコシステム)

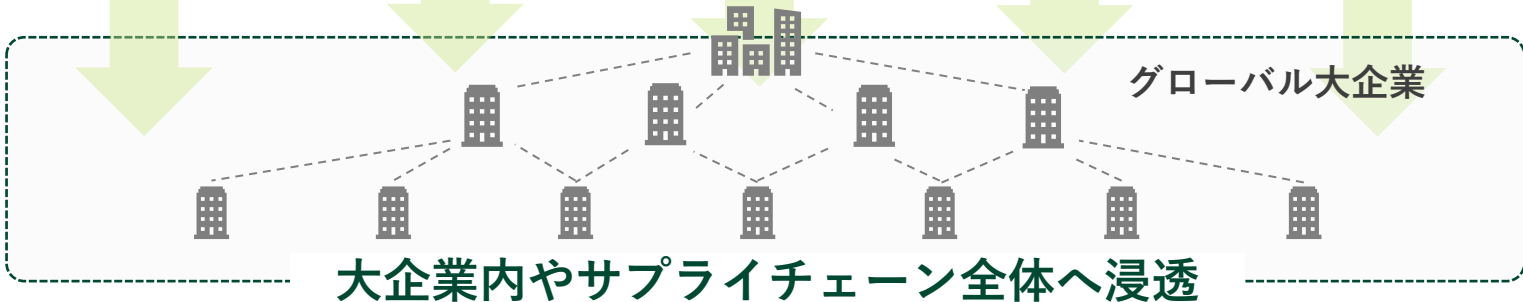


新たなリスクテイクと対象先拡大

Embedded Finance



データ分析に基づく金融の有効活用

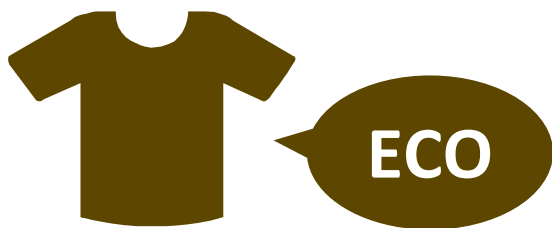




## 「脱炭素×デジタル」の取組

## 2. 「脱炭素×デジタル」の取組 脱炭素社会の未来像

### 1 低炭素製品が競争力に繋がる



「環境に良い商品である」という  
漠然とした訴求力

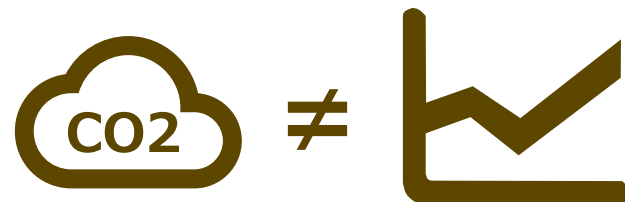
BEFORE

AFTER



低カロリー食品のような感覚で、低炭素性が  
商品の目に見える価値のひとつになる

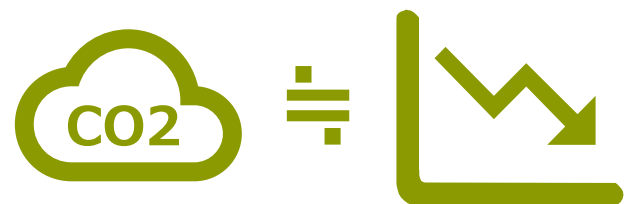
### 2 脱炭素の取組が企業価値に直結



脱炭素の取組は企業の努力目標

BEFORE

AFTER



脱炭素の取組が進まないと投資家・株主・  
取引先からの評価に大きな影響を与える



## 企業が直面する課題

ステークホルダー



期待/圧力

大企業



要請

サプライヤー



①「排出量の算定・開示を求められている」・・・**30%以上**  
(当行ヒアリング結果)

しかし

②「サプライチェーン排出量を算定済」・・・**10%未満**  
(上場企業全体)

なぜならば

③「EXCELで排出量計算・管理」・・・**90%以上**  
(当行ヒアリング結果)

その結果

④「脱炭素化に向けた中長期計画がある」・・・**20%以下**  
(当行ヒアリング結果)

## 2. 「脱炭素×デジタル」の取組

# デジタルと脱炭素の親和性

### 課題①

非効率な  
データ収集の効率化

API連携

AI-OCR



分散しているデータの  
収集を効率化・自動化

### 課題②

最適な  
削減施策の立案

ビッグデータ分析

アルゴリズム



データに基づく  
根拠ある脱炭素施策

### 課題③

サプライチェーン間の  
データ連携方法の確立

クラウドストレージ

ブロックチェーン



サプライチェーンをデータで  
繋げる・信頼性を担保

Digital technologies

## 企業のニーズに沿った一連の脱炭素ソリューション

データ収集

排出量算定

情報開示

カーボンオフセット

Digital technologies

排出量算定に必要なデータの収集

自然言語処理  
AI-OCR等



非定型文書からの  
データ抽出に対応

簡易・高度な  
排出量算定



+



中小・サステナ先進企業  
双方のニーズに対応

気候変動による  
企業財務影響分析

TCFD対応 TCS

気候関連  
リスク

気候関連  
機会



財務影響

分析業務の  
効率化・高度化

排出権取引による  
カーボンニュートラル実現

マーケットプレイス

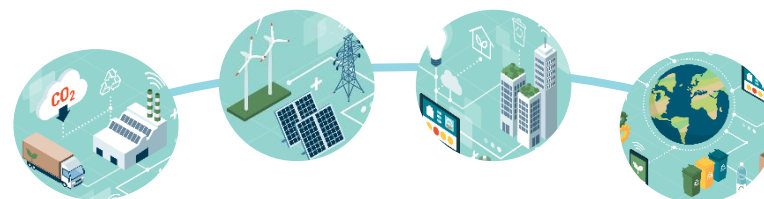
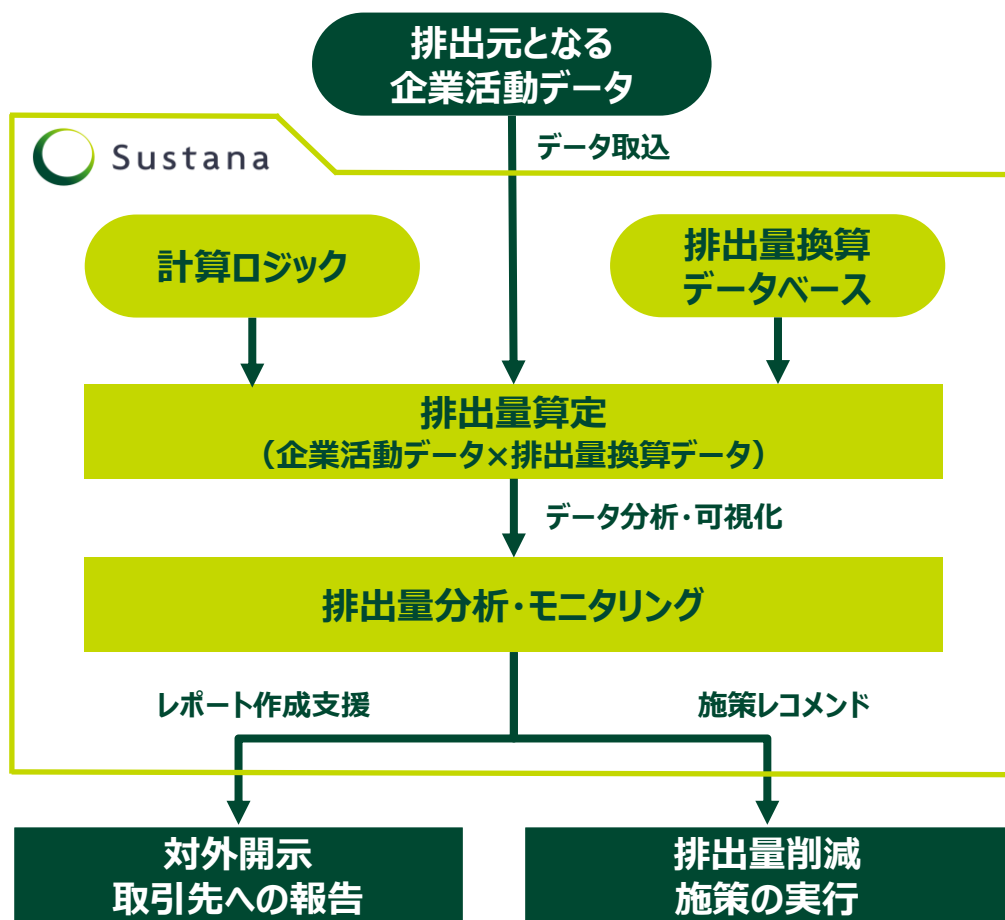


排出権需給の  
マッチング



# Sustana ( Sustainability + Analyze )

## 温室効果ガス排出量の算定・削減支援クラウドサービス



グローバル基準である  
GHGプロトコルを採用

サプライチェーン排出量  
算定に必要なデータベースを搭載



## 2. 「脱炭素×デジタル」の取組 排出量算定高度化への対応

- SMBCは2021年10月に米Persefoni AI, Inc.へ出資しました



世界でサステナビリティ分野を  
先導する人物が多数在籍



米国Forresterよりサステナ  
先進ソフトウェア企業に選出



世界共通及び各国指定の排  
出係数・計算ロジック実装



常に新しいデータや  
算定ロジックをアップデート

## 2. 「脱炭素×デジタル」の取組

# 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）対応

- SMBC・日本IBM・米国The Climate Service, Inc.の三社は、TCFD対応の支援ツールである Climanomics®platformの展開に向け、覚書を2021年12月に締結しました



## Climanomics®platformの特徴

- TCFDへの網羅的な対応
- 信頼性の高いデータソース
- 透明性・説明容易性
- グローバルで分析可能



# 情報銀行の事業化へ向けた取り組み

## データ駆動型社会（Society5.0）

個人の多様な生活や幸せの追及に向けて、デジタル技術やデータを活用し、人々の想像・創造力との融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会

## 情報銀行

個人との契約等に基づき、パーソナルデータを管理するとともに、本人の意思に基づいてデータを第三者に提供する事業

## データポータビリティ

個人が事業者提供した自らのデータを、一般的に用いられる機械判読可能な電子的フォーマットで当該データ管理者から受け取る、又は、別の事業者に移管する権利



### 3. 情報銀行の事業化に向けた取り組み

# データ駆動型社会を目指すもの

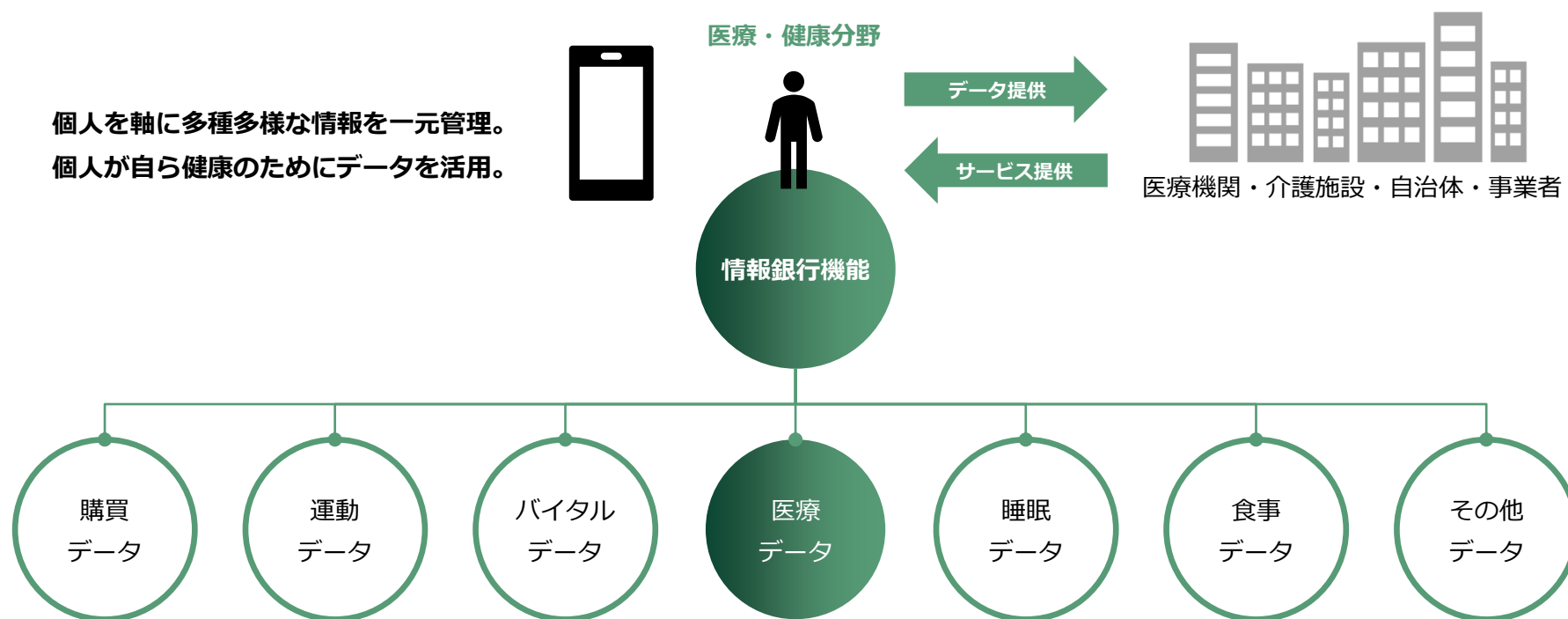
- 個人データやデジタル技術をフルに活用し、「全ての人が豊かな時間を過ごせる社会」の実現を目指します。



### 3. 情報銀行の事業化へ向けた取り組み

## まずは、「医療データの情報銀行」から

- 多種多様な個人データの中でも、最も重要とも言える医療データを中心に据え、情報銀行の事業化に取り組みます。



## 情報銀行とは

- 「個人との契約に基づき、個人の為にパーソナルデータを管理し、個人の意思に基づきデータ利活用を行う事業」
- 銀行 = 自分のお金を預けるところ
- 情報銀行 = 自分のデータを預けるところ

## 「医療データの 情報銀行」

- 医療機関で管理されている自分の医療データ(アレルギー・検査結果・薬剤処方 etc.)を、自分のスマホで閲覧・管理できるようにするサービス
- 医療データの情報銀行 ≡ PHR(Personal Health Record)

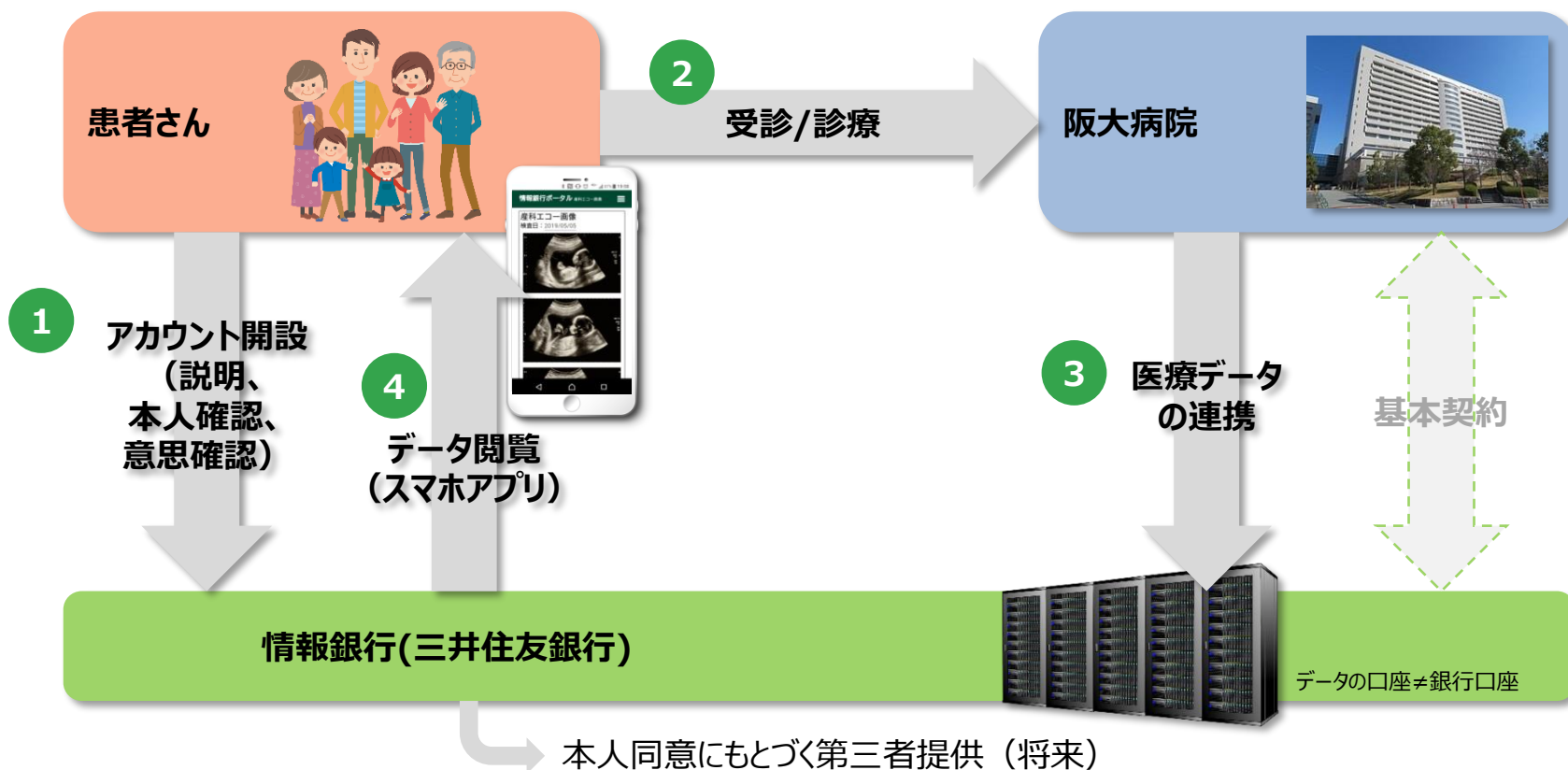
## なぜ銀行が 取り組むのか

- パーソナルデータを安心・安全に預り・運用する機能の提供は、これからの金融機関に求められている新たな社会的使命の一つ
- 「自分の大切なものを託すという意味では、お金もデータも同じ」  
(阪大病院の患者さんの声)

### 3. 情報銀行の事業化に向けた取り組み

## 「医療データの情報銀行」の事業化に向けた実証

- 2019年3月以降、大阪大学医学部附属病院、日本総合研究所と共に、実証事業を行って参りました。
- 患者さんは、スマホで自分の医療データを閲覧できるようになります。



### 3. 情報銀行の事業化へ向けた取り組み

# 「医療データの情報銀行」、スマホアプリ”decile”



### 3. 情報銀行の事業化へ向けた取り組み

## decileの特徴①：確りとしたデータの仕分け

- 医療データは多種多様であり、全て一律でお返しすることが、患者さんの利益になるとは限らないと考えております。
- 患者さんがスマホで閲覧・管理・利活用できるデータについては、各診療科と連携しつつ、丁寧に選別・仕分けしております。

診療科	診療課題	分類	大項目名	新着通知	患者さんが閲覧・利用可能なデータ項目数				
					-	医療機関 向けの内容	センシティブ な内容	合計	
-	-	禁忌	薬剤禁忌	-	21			21	
			食物禁忌（アレルギー等）	-	48			48	
			その他の禁忌／禁止・ハイリスク	-	19			19	
			小計		<b>88</b>			<b>88</b>	
(共通)	-	検査	-	-	34			34	
		処方箋	-	-	11			11	
		小計			<b>45</b>			<b>45</b>	
産科婦人科	妊娠・出産	初診時記録	-	-	9		27	36	
		妊婦健診	母親データ	-	-	15			15
			胎児データ	-	-	11			11
		エコー検査(測定)	-	-	60			60	
		エコー検査(画像)	-	-	1			1	
小計				<b>96</b>		<b>27</b>	<b>123</b>		
循環器内科	ペースメーカ	ペースメーカ手術記録	手術日、手術内容、デバイス等	-	10	38		48	
		ペースメーカ経過記録	診察日、測定、診察終了時の設定等	-	30	21		51	
			医師からのコメント	○	1			1	
		遠隔モニタリング通信状態	遠隔モニタリング通信状態	-	2			2	
小計				<b>43</b>	<b>59</b>		<b>102</b>		
総計					<b>272</b>	<b>59</b>	<b>27</b>	<b>358</b>	



### 3. 情報銀行の事業化へ向けた取り組み

## decileの特徴②：オンラインでの本人確認・認証

- 確りとした本人確認・認証は、全てのサービス・データ利活用の礎となります。
- オンラインで銀行口座を開設する際にも利用されているオンライン本人確認・認証サービスを導入しました。  
(SMBCグループのポラリファイ社が提供)

#### オンラインでの本人確認の流れ（ポラリファイ社ホームページより抜粋）



## 3. 情報銀行の事業化へ向けた取り組み

## decileの特徴③：動画による分かり易い説明

- 実証を通して、患者さんから聴取した不安を感じるポイントを踏まえ、5分弱の動画を作成しました。
- 少し長いとの懸念もありましたが、100名の患者さんにご覧頂き、ほぼ全員の方から、「適切」との評価を頂きました。

- 「少々長いとは思ったがプライバシーやセキュリティが気になっていたので、**とても安心できました。 unnecessaryな説明は無いと感じた**」
- 「長いとは思ったが**不要な点は見当たらない**」
- 「少々眠くなったものの、**内容は必要十分**」






### 3. 情報銀行の事業化へ向けた取り組み

# 更なる価値の提供と幅広い普及を目指して

- 患者さんへの更なる価値の提供と、幅広い普及を目指し、2020年9月、株式会社プラスメディをSMBCグループに迎え入れました。


SMBCグループ

【NEWS RELEASE】

2020年9月15日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ  
株式会社プラスメディ

株式会社三井住友フィナンシャルグループによる株式会社プラスメディの連結子会社化について

株式会社三井住友フィナンシャルグループ（執行役社長グループ CEO：太田 純、同社グループを総称して「SMBCグループ」）は、株式会社プラスメディ（代表取締役 社長兼CEO：永田 幹広、以下「プラスメディ」）を連結子会社化<sup>①</sup>しましたので、お知らせいたします。  
（※ 銀行業高度化等会社：銀行法第52条の23第1項 第11号の3に規定）


記

1. プラスメディについて

プラスメディは、患者サービスの向上と医療機関の業務効率化を支援する個人向けスマートフォンアプリ「MyHospital」を提供しています。

MyHospitalには、後払い会計や処方箋情報FAX送信等の「通院・受診を支援するサービス」と、MyカルテやMyおくすりといった「自分の健康・医療データを管理するサービス」があります。患者は、前者により待ち時間の削減や有効利用による患者体験の改善が得られます。また後者は、病院から検査履歴や薬剤処方履歴等 医療データの連携を受けアプリ上で確認することができる機能で、これにより自分の健康状態をデータにもとづき把握・管理・説明することが可能となります。更に、これらのサービスが普及することは医療機関等の業務効率化にも繋がります。

プラスメディは、MyHospitalを通じて「人々が心身共に健康な生活を送ることを支援し、全ての人々が豊かな時間を過ごせる社会を実現するために貢献する」というビジョンの実現を目指しています。



**MyHospital** 日常と病院を繋ぐコンシェルジュアプリ

- 電子診察券～病院TOP画面～
- 符合原簿通知
- 後払い会計～オンライン決済～
- 処方箋情報FAX送信
- お知らせ・カレンダー
- Myカルテ～健康情報の管理～
- Myおくすり～お薬の記録管理・飲み合わせチェック～

MyHospitalは患者様が分かる「できたらいい」に応えるコンシェルジュアプリです。

通院・受診を支援するサービス

自分の健康・医療データを管理するサービス

- プラスメディは、患者サービスの向上と医療機関の業務効率化を支援する個人向け**スマートフォンアプリ「MyHospital」**を提供しています。

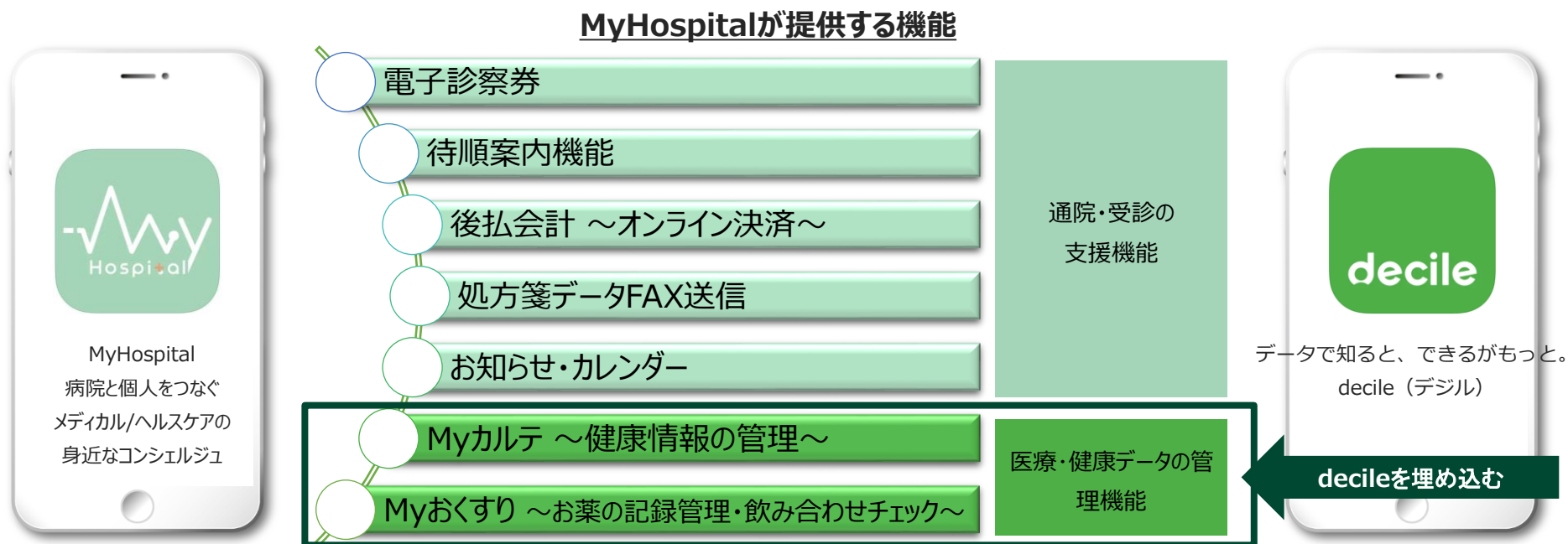
- MyHospitalは、
  - ① 後払い会計や処方箋情報FAX送信等の「**通院・受診を支援するサービス**」と、
  - ② MyカルテやMyおくすりといった「**自分の健康・医療データを管理するサービス**」がトータルに提供されている所に特徴があります。

- 後者は、SMBCが提供している“decile”(医療データの**情報銀行**)と同様のサービスになります。

### 3. 情報銀行の事業化へ向けた取り組み

## “MyHospital”と“decile”の融合

- より良いUXを実現するため、“MyHospital”の「自分の健康・医療データを管理する機能」を“decile”と融合します。
- このアプリを起点にして、「全ての人が豊かな時間を過ごせる社会」に繋がるサービスを開発・提供して参ります。



本書はSMFGのデジタルイノベーション活動をご案内するために作成されたものです。

本書は一般に信頼出来ると思われる資料に基づき作成致しておりますが、その信憑性・正確性につき、弊社独自に確認したものではありません。

本書記載の内容は、その時々金融環境・制度改正等に応じて変更になる可能性があります。また技術の進展・改廃等について将来の動向等を保証したり、断定するものではありません。